静岡新聞で学ぼう

Newspaper in Education

静岡新聞

大御所の遺産探し

家康公顕彰400年 ❖48

歴史を照らす ⑫ 水野忠邦

「国民守る」志高い老中

江戸時代の三大改革の一つ、天保の改革を推し進めたことで知られる水野忠邦。天下統一を果たした徳川家康にあやかって出世を目指し、実質石高20万石を超す九州の唐津藩から、あえて6万石の浜松藩の藩主になったとされる。

忠邦が1833年に書いた碑文「県居翁霊社」が、国学者賀茂真淵を顕彰する県居神社（浜松市中区東伊場）に残る。裏書きも忠邦の手による。同神社の三浦豊宮司（67）は「老中に上り詰めた忠邦の碑文が、当神社に残っていることは誇り」と胸を張る。

浜松藩主時代に寺社奉行、大阪城代、京都所司代、そして老中へと出世の階段を駆け上がったが、天保の改革に挫折して失脚。山形に移封された。質素倹約を旨とした改革は、藩内でも徹底され、農民の不平が高まった。

天保の改革は時代に適さなかったが、忠邦には国と民を守ろうとする高い志があった。三浦宮司は「単に出世を目指すのではなく、『日本を何とかしたい』という思いで必死だったのだろう」と話した。

（浜松総局・青木功太）

〈土曜日に掲載します〉

水野忠邦が書いた「県居翁霊社」の碑文。国学者をまつる神社の建立は国内初だった＝3月31日、浜松市中区東伊場

メモ 県居翁霊社　国学の祖、賀茂真淵（1697～1769）をまつるため、1839年に遠江の国学者高林方朗（1769～1846）が、真淵ゆかりの伊場に建立した。国学者をまつる神社としては日本初。当時の浜松藩主水野忠邦の協力を得た。真淵が亡くなった年に誕生した方朗は、自分は真淵の生まれ変わりだという意識を持っていたとされる。県居翁霊社は1884年に県居神社と改称され、1920年に現在地の浜松市中区東伊場に移された。

2015年4月4日　朝刊

①水野忠邦が推し進めた
　改革は何というでしょうか。

［　　］

②水野忠邦は、どうして浜松城主になろうとしたのでしょうか。

［　　］

③水野忠邦が書いた碑文を見るために、どこに行けばいいでしょうか。

［　　］

年　　組　　名前

（小学校中学年以上　社会・総合）